

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2	選択
担当教員			
古川 直子			
1年次	全学部	週2時間	有
添付ファイル			
peace.pdf			

授業概要	<p>近年の平和学では、戦争や紛争などの直接的な暴力はもとより、飢餓、貧困、差別、抑圧などの不平等な社会的構造もまた平和を阻むものと考えます。この授業の前半部分では、このような構造的暴力の具体的局面を日本と世界の事例からとりあげ、広い意味での平和について考える視点を身につけてゆきます。戦後の平和学／平和運動の展開において、被爆地としてのヒロシマ・ナガサキはとりわけ重要な役割を果たしてきました。授業の後半部分では、長崎という地域に固有の体験から戦争と平和について考えてゆきます。</p> <p>学位授与の方針・教育過程編成実施の対応する教育目標 【形1】 【形2】 【形3】 【形4】 【機R1.4】 【機1.4】 【臨工1】 【医工1】 【国医1】</p> <p>その他の年度については、2019年度以前入学生は2019年に掲示された内容、2020年度以降入学生は入学年の履修ガイドを参照すること。 また、系統図も参照すること。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン ー平和学のアプローチ</p> <p>第2回 構造的暴力とは何か（1）消極的平和と積極的平和</p> <p>第3回 構造的暴力とは何か（2）豊かさのなかの貧困</p> <p>第4回 構造的暴力とは何か（3）子どもの貧困</p> <p>第5回 構造的暴力とは何か（4）貧困の連鎖</p> <p>第6回 平等な社会とは（1）「生まれ」が決める人生</p> <p>第7回 平等な社会とは（2）さまざまな格差</p> <p>第8回 平等な社会とは（3）社会的不正義</p> <p>第9回 平等な社会とは（4）共生に向けて</p> <p>第10回 原爆とナガサキ（1）長崎における原爆の被害</p> <p>第11回 原爆とナガサキ（2）被爆体験と「二重の差別」</p> <p>第12回 原爆とナガサキ（3）韓国・朝鮮人被爆者の体験</p> <p>第13回 原爆とナガサキ（4）「ノーモア ナガサキ」に向けて</p> <p>第14回 原爆とナガサキ（5）「原爆神話」とナガサキ</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業形態	<p>【講義形式】</p> <p>【アクティブラーニング】あり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者は配布資料を精読し、授業に臨みます。</li> <li>・授業中にワークシート記入の時間を設けますので、受講者は予習内容をもとに設問に解答します。</li> <li>・講義はワークシートの設問に沿って、受講者との対話形式で進めます。</li> <li>・対話型の講義を進めやすくするため、座席指定制を採用する場合があります。</li> </ul> <p>【情報機器利用】</p> <p>参考文献をPDFなどで配布したり、課題を配信したりすることがありますので、Google Classroomにアクセスできる状態で授業に臨んでください。</p> <p>【成果物等の提出についての学生へのフィードバック】</p>

	<p>ワークシートは一度記録をとってから返却しますので、授業中の解説を聞きながら答案を修正してください。</p> <p><b>【授業方法】</b> 知識や理論を説明するだけでなく、具体的な例をつうじて学生自身に思考をうながしてゆきます。</p> <p><b>【特別な事情により対面授業が実施できない場合の形態】</b> Google classroomを基本に会議システムソフト「meet」を使用する予定です。</p>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平和学の基本的な用語・考え方を身につけ、さらにそれを用いて身の回りの具体的事象を捉えられるようになる。</li> <li>・平和に関するテーマについての文章を読み、その内容を正しく把握するとともに自らの考えを論理的に述べられるようになる。</li> <li>・課題への取り組みをつうじて、主体的に学ぶ姿勢を身につける。</li> </ul>
評価方法	<p>平常点（ワークシートの提出状況や内容、受講態度、教員からの問いかけに対する応答）60%、期末試験（授業内小テストに変更する可能性あり）40%。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの提出状況・内容に応じて、加点・減点評価します。</li> <li>・ノートテイクや授業内での発言における積極的な姿勢を加点評価します。</li> <li>・欠席・遅刻は減点対象とし、授業放棄や授業を妨害する行為などについては大幅に減点します。</li> </ul> <p><b>【特別な事情により対面での定期試験が実施不可能な場合の評価方法】</b> Google classroomをつうじて遠隔で試験を実施します。</p>
評価基準	<p><b>【2018 年度以前入学生】</b> 評定は、優、良、可、不可の4種類をもってこれを表し、優は80点から100点、良は70点から79点、可は60点から69点、不可は59点以下とし、優、良、可を合格、不可を不合格とする。</p> <p><b>【2019 年度以降入学生】</b> 評定は、S、A、B、C、D の5種類をもってこれを表し、Sは90点から100点、Aは80点から89点、Bは70点から79点、Cは60点から69点、Dは59点以下とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。</p> <p>詳細はルーブリックを参照すること。</p>
教科書・参考書	<p>資料は授業中に配布します。</p> <p>授業中の解説を聞きながら、重要なポイントをノートや資料、ワークシートに書きこむ作業が必要です。</p>
履修条件	<b>【前提となる授業科目】</b> 特になし。系統図を必ず参照すること。
履修上の注意	<p>初回の授業で講義の進行、成績の評価などについて詳しく説明しますので、受講希望者は原則、初回から授業に参加してください。</p> <p>評価の半分以上を占める平常点は、授業に出席し、実際に取り組んだ者のみに与えられますので、特別な理由なく4回以上欠席すると単位取得が困難になることに十分に注意してください。</p>
予習・復習	<p><b>【予習】</b> 事前に配布した資料を精読しておく。</p> <p><b>【復習】</b> 授業内容を振り返りながら、自筆ノート・ワークシートを整理する。</p>
オフィスアワー	<p>授業中に指示します。</p> <p>掲示や AA システムの情報も参照すること。</p>
備考・メッセージ	特になし